

NPO 法人 やまぼうし自然学校

ニュースレター

2011 年度 秋号

東日本大震災で被災された方々に、心よりお見舞い申し上げます。
被災地の一日も早い復興をお祈りし、私たちもできることから動いていきます。



ぐぐぐ！ (長野本校イベント：割伐材のトナカイ&しめ飾りづくり)

代表理事よりご挨拶**



加々美貴代 (がみちゃん)

今年もあっという間に1年が過ぎてしまった。東日本大震災で日本中が大混乱の年でもあった。「絆」が今年を象徴する文字に選ばれた意味を考えつつ、忙しい中でも立ち止まって、考えて、時には自分のために時間を使って、今だからこそゆったりとした時間をみんなと共有したい。1年間、やまぼうし自然学校にご支援、ご協力頂きありがとうございました。来年も「森でつながるいのちのわ」をキャッチフレーズに、うれしい顔、楽しい声を森中に響かせます。新しい年もよろしくお願い申し上げます。

発行：特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校
住所：〒386-2204 長野県上田市菅平高原 1223-5751
TEL：0268-74-2735 FAX：0268-74-2795
Email：info@yamaboushi.org URL：http://yamaboushi.org

9,10,11月の実施事業

■事務局

森を楽しむ講座_チャレンジ (9月11日、10月15日、16日、11月5日、6日 長野)、チーム腹時計 (9月13日、11月7日 長野)、森を楽しむ講座_森めぐり (9月15日、10月20日、11月11日、17日 東京)、自然体験活動指導者研修会 (9月17日 東京)、理事会 (9月19日)、やまぼうしインタープリター養成講座 (9月21日、25日、10月12日、11月9日、長野)、自然体験活動指導者研修会 (10月29日 長野)、プロジェクトアドベンチャー研修会参加 (11月18日 長野)、RQ市民災害救援センター東日本大震災被災地支援ボランティア (11月19日、20日、21日 長野)、CONE全国フォーラム準備会参加 (11月23日、24日 長野)

■体験学習

明治学院大学 (9月2日)、荒川区立諏訪台中 (9月12日)、長岡医療福祉カレッジ (9月30日)、新宿区立落合第三小 (10月5日)、エデュベル学園 (10月6日)、すがだいら保育園 (10月14日)、ノートルダム清心女子大学附属小 (10月14日)、大田区立大森東小 (10月17日)、常滑学習センター (10月18日)、新宿区立市谷小 (10月21日 東京)、北本市立宮内中 (10月26日、27日、28日)、長野県立上田養護学校 (10月28日)

■森でもりもり遊び隊/フォレストキッズ

秋の遊び隊デイキャンプ (9月4日 遊び隊)、八国山～北山公園 (10月1日 フォレストキッズ)、森遊び (10月2日 遊び隊)、日和田山登山～巾着田 (10月29日 フォレストキッズ)、森でもりもり遊び隊まつり (11月6日 遊び隊)

■イベント

親子で竹林整備体験 (9月17日 長野)、秋の森遊びと焚き火料理 (9月23日 長野)、鎌倉自然観察会 (10月1日 東京)、森あちょびクラブ (10月2日 長野)、秋の里山登山 (10月8日 長野)、炭焼き&窯ビザづくり (10月15日 長野)、キノコ狩り&キノコ料理三昧 (10月16日 長野)、森のカゴ編み (11月5日 長野)、野川自然観察会 (11月26日 東京)

■委託

丸子北中コスモス大学 (9月1日、9月15日 長野)、神奈川シニア自然大学校 (9月3日、10月11日、18日 東京) 黒川青少年野外活動センターネイチャーボランティア (9月4日、10月2日、11月6日 東京)、ひまわり荘 (9月8日 長野) 上田市教育委員会 キャンプ指導者養成講座 (9月10日 長野)、上田市農林課 森の学校 (9月11日 長野)、中部森林管理局 内部研修 (9月15日 長野)、菅平スカイライントレイルランレース&アウトドアミーティング (9月23日、24日 長野)、上田市社会福祉協議会 (9月23日 長野)、トラベルマスターズ (9月28日 長野)、森林ボランティア・NPO連携推進会議 (9月30日、10月1日 長野)、上小地域みどりの少年団指導者養成講座 (10月5日 長野)、

北信森林管理署 FFG 交流会（10月8日 長野）、長和町保健センター 親子ふれあい教室（10月14日 長野）、自然体験推進協議会（CONE）インストラクター養成会（10月14日、15日、16日 東京、10月30日 長野）、らいてふの会 森遊び（10月16日 長野）、黒川青少年活動センター主催イベント（10月16日 東京）、望月少年自然の家 タイニーキャンプ（10月22日、23日、11月12日、13日 長野）、うえだ原町一番街商店会（10月23日、11月13日 長野）、NPO 法人里山を守る会（11月2日 長野）、秋田県庁山本地域振興局しらかみ観光振興班（11月28日 長野）

これ、だ〜れだ？

答えは6ページ

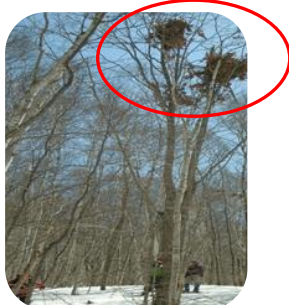
菅平高原のスキー場もオープンし、いよいよスノーシーズン本番の到来です！雪の森には、雪があるからこそ、木々が葉を落とすからこそ、寒いからこそ出会える宝物がいっぱいです。スノーシューやネイチャースキーを履いて、雪の森に出かけませんか？菅平高原は紫外線が強いので、雪焼け対策もお忘れなく！

さて、下の写真は、いずれも雪の森を探検していたら出会った、私たちより先に来て遊んでいた誰かさんの残したものです。さあ、いったい誰でしょう。探偵になったつもりで推理してください。

①



②



③



④



⑤



⑥



暮らしが主役の復興

11月19日、宮城県登米市。11時旧鱒淵小学校到着。RQ 市民災害救援センター本部（以下、RQ）でボランティア受付。「お昼ご飯は12時からです。」あと1時間ある。外に出た。

「これ飛んできたぞ〜。」

畑に飛ばした発泡スチロールが縁でとなりの民家のおじいちゃんと立ち話。天候のこと、放射能のこと、山のキノコのこと。もうお昼だなあ、といいながら話が止まらないおじいちゃん。12時の昼食時間が気になりはじめる私。地元の人と話がしたくて来たのに。もっと話したいのに。支援って何？悶々とした疑問から始まった。

11月19日〜21日の3日間スタッフと会員仲間の5人で東北へ行った。仕事が落ち着いたら支援に行こうと計画していた。

■1日目 仮設住宅でプランターづくり

RQのユニフォームであるオレンジ色のベストを着ていると「RQの人ね！」と言われる。来た嬉しさと、自分が醸し出す「ボランティアオーラ」への嫌悪感が入りまじる。新潟の小学生が作った花の苗を、地元の中学生在がプランターに植える。一緒にやりましょと声をかけても、「私たちいなくていいね。」といって場を去る人がある。やりましょと運んでこられるイベントに興味がなくて当然、とらえておしまいじゃなく、必要とされるつながりをどう見出すかが問われている。

■2日目 瓦礫撤去作業

実際はもう「瓦礫」はない。ひたすらに、家の基礎が広がるのみ。「瓦礫」という言葉は暴力になりえる、と聞いたことを思い出した。思い出の品がたくさん埋まり、流された。一挙手一投足に気を使っても使い切れない。とんでもない疲労感に襲われた。それにしても、家の基礎はこんなにも小さいものかと思った。“町”の大きさは、人が行き交う空間で実感できるものだと感じた。9時〜15時までの作業中、見られている意識がいつも強かった。

「被災者」と「支援者」というくくりを意識した場合は、居心地の悪い緊張感に満ちている。居心地のよい場を想像すると、「界限」とか「商店街」とか「祭り」とか、そんな言葉が旋回する。イメージ。

■あたりまえの生活

RQ 市民災害救援センターは、11月末でボランティアや物資の募集を終了した。これからは、各拠点が独立し長期に支援を続けるという。RQの変化はそのままそこに暮らす人の生活変化を意味しない。買い物をし、仕事をし、病院へ行き、学校へ行く。明日につづく今日の生活がある。その暮らしが主役。

復興を願う中、思い出す言葉がある。10年前、貧困と闘うインドの村を訪ねた時の村長が言った。

「自分の村を見てもらえることが何より嬉しい。この村をもっとよくしたい、というおれたちのエネルギーになる。」

これからもずっと、東北の暮らしと自分の暮らしはつながっている。



文・瑞慶覧 明子

森でモリモリ遊び隊

9月4日 秋の遊び隊デイキャンプ 台風の影響でデイキャンプに変更になっちゃったけど、1日で2日分遊びつくしたキャンプでした。

10月2日 森遊び ダボスの丘を駆け上がり、森に飛び込んだら手と口と足が同時に動き始める遊び隊。伐って、掘って、笑って、大忙しでした。



ちょっぴり冷たいけど、やっぱり沢って楽しい！水流を操るよ。



楽しかった、流しそうめん。お腹がはちぎれるほど食べました。



熱烈リクエストにより、あったか足湯もやりました。



ドキドキの丸太渡り。バランスが重要だね。



うひひひ、落とし穴はブラジルに届くまで掘っちゃうぞ。



最後は、遊び隊祭りの作戦会議。どんな屋台をだそうかな～。

フォレストキッズ

10月1日 八国山～北山公園

山に入れば発見が、草原では走り、川があれば水遊び、丘に登れば転がり弓や体験までもしてしまった、よくばりプログラムでした。

10月29日 日和田山登山～巾着田

穏やかな女坂と、岩場の男坂。みんなの希望で、岩をよじ登って行きました！



丘に登れば、転がる～



川ではじゃぶじゃぶ水遊び



弓矢体験、狙うはイノシシ！？



日和田山に登る岩場の男坂に挑戦



手足を使って、頂上まであと少し



山を下り、巾着田で馬に出会いました

東京支部イベントレポート

野川自然観察会 (11.11.26)

先日行われた野川観察会に、長野本校から2人で参加してきました。今回の舞台の野川は、国分寺市の恋ヶ窪を水源地として、はけ治いの湧き水が流れ込む川。世田谷の二子橋付近で多摩川と合流し、総延長は20.23km。川沿いには野川公園や武蔵野公園ほか、自然の緑地も多く川にはカルガモやカワセミ、鯉などがみられる自然豊かなところ。参加者総勢40名が武蔵小金井駅に集合。小春日和のようなお天気の中、3グループにわかれて出発しました。



企画：湯浅 泰博
文・瑞慶覧明子 & 佐藤明希



六角地蔵にごあいさつしたら、その名も「黄金の水」をいただきました。タップを持っている人しか飲めない特別な水。タップは近くの文房具屋さんで売っています。ひとつの蛇口に13人がしがみつくと光景を見かねて、水を汲みに来た地元の方が「よかったら私のも使って～」とMyタップを差し出してくれる一幕も。こういうあたにかいやりとりが、地域のつながりをつくるのだと思います。お代が井戸水の保全に役立てられるタップは、集う人々をも和ませる優れものでした。

町の中では、巨木を見上げたり、貴重な昆虫を保護している草むらに目を凝らしたり。はけの森美術館では、昆虫たちの冬越しの場所を考えたお庭や湧水に感嘆の声。「仮暮らしのアリエッティ」の最後の場面のモデルとなった、はけの小道も歩きました。ユーモアたっぷりのインタープリターの話に熱心に耳を傾けるみなさんの足取りの軽いこと！野川公園では、種に秘められた木々の子孫を残す様々な知恵をじっくり観察しました。隣同士の同じ木でも、紅葉の進み具合が違ったり、2本の木が合体していたりと木々の個性がキラリと光る道中でした。

お昼は地元小金井のお惣菜屋さん「スプーンフル」(あっきいの友達のお店です)の、はけの地野菜をたっぷり使ったヘルシーお弁当。グループで車座に座り、おいしくいただきました。昼食後はお気に入りの落ち葉で、素敵なおしりを作りました。



昼食の後は、木を巧みに利用した水車の見学や、国立天文台を見学し、昔の人の思いや積み上げてきた技術のすごさに圧倒されました。昔の機械の方が、仕組みがシンプルでわかりやすく、機械自体が美しいと思いました。



参加者の方々からは、「お弁当が美味しかった！」「地元なので何度も来ていたけれど初めての発見がたくさんあって楽しかった。」「15000歩も歩いちゃったわ～、爽快！」「また別の季節も来てみたい」などの感想をいただきました。なにげなく歩いている地元の道や公園に、たくさん森の恵みがあることや、みんなで発見を共有する楽しさを味わっていただけたでしょうか。今度は、野川の源流を訪ねる企画も計画中ですので、お楽しみに！

2011 年度総会を開催します

2011 年度総会を以下のように開催いたします。やまぼうし自然学校の活動をよりよいものに発展させていくため、議決権のある正会員の皆さんはもちろん、賛助会員、インタープリター会員の方も傍聴できますので、どうぞご参加ください。また、正会員としてともに運営にお力を貸していただきますようお願いいたします。

とき 2012 年 2 月 11 日（土・祝）

ところ 上田市勤労者福祉センター 2 階 第 5 会議室
上田市中央 4 丁目 9-1 電話 0268-24-7363

議題 2011 年事業報告、2012 年事業計画 など

なお、総会終了後に同じ会場で、ミニ講演会またはクラフト研修会を予定しております。内容など、詳細が決まりましたら、またご案内いたします。



これ、だーれだ の答え

- ①カケス：写真では、よ～く目を凝らさないと見えないかもしれませんが、広げた羽の先、くちばしまでくっきりと跡がついていました。雪の森でも「ギャーギャー」と賑やかに鳴いているのでわかりやすい鳥です。
- ②クマ： 鳥の巣ではなく、「クマ棚」と呼ばれる、秋にクマが食事をした跡です。どっかりと腰を下ろし、実のついた枝を自分の方に引き寄せて食べ、食べ終わったらお尻の下に枝を敷いていくのです。
- ③ノウサギ：後ろ足が、前足を飛び越してつく、特徴的な足跡なので、わかりやすいです。たどっていくと、ウンチがあったり、運がよければ会えることも！
- ④風： 誰も歩いていないと思って、よく見ると風の足跡が見つかります。1 つとして同じ模様のない、自然の芸術です。
- ⑤ノウサギ：これも、ノウサギが残した食べ跡です。鋭いナイフで切ったようになるのが特徴です。カモシカなどが食べたり、雪の重みで折れた枝だと、もっとギザギザした跡になります。
- ⑥人間： かんじきを履いて歩いた足跡です。雪の固さなどの条件が同じだとどれだけ沈んでいるかで歩いた人の体重がバレます・・・。

やまぼうしインプリ発信

老ケメンでも“大志”はいだけるか？

やまぼうし自然学校インタープリター 北村雅俊



2010 早春、老々男女 20 名がソロリ新宿エコギャラリーに。われら 13 期生の森林インストラクター養成講座が始まりました。「植物をもっと知りたい」、「間伐の勉強をしたくて」、「学生時代から山に親しんでいて」、「元化学の教員でして」、などなど…

第一声をお聞きして、皆さんのバックグラウンドにそれは驚いたものです。そういう私は、特技なし、自然に興味なしの平凡なサラリーマンを 40 年、人生の一区切りにでも、と軽い気持ちでおりました。

さて達人揃いの輪へ飛び込んでしまい、どうなるものでもありません。森林インストラクターとは、遠くにありて思うもの…冷たい雨がふる東京マラソンの当日に、スタート地点すぐ近くでの“かく乱”でした。

■夏は来なくても想いだす～♪

講座も回を重ねると、夏を過ぎて長野本校に会場が移っていきます。宿泊し、夜もあれやこれやと森の話をしながらの講座は、とにかく楽しかったです。やがて同期に一体感も生まれ、日がな山野を巡ります。枝葉に触れては、当てズッポに名を呼んでみたり、講師に同じこと百一回くらいも訊いてみたり、土を削ってのぞき込み、判ったような評論も。しまいには蜂の巣をほじくって大慌て…。そうこうしているうちに、みなさんが白衣の研究生に見えはじめてきたから愉快です。

仲間と一緒に心なごんだ早朝の散歩道では、おもわず TV ドラマ『水戸黄門』のメロディに乗せてドングリコロコロとやってしまい、もちろん仲間には不評でした…。そんなこんなで、毎回の森の中ではエネルギーと物質の循環を感じました。今夏もまた、忘れ得ぬ人たちが長野のあちこちの森で行き交うことでしょう。

■あっという間に秋となり・・・

いよいよ迎えた 2011 秋の陣。そうです、「森林インストラクター」試験です。男子団体総合にて同期受講の 4 人が、対戦成績 6 対 14 勝 2 敗を水揚げしてきました。それにしても老ケメンにとって受験はつらい。手は痺れてくるし、解答した記憶もふっ飛ぶほどの体力勝負でした。

「安全・教育」で延べ 2 戦を落としたのはなぜ？…そう、フィールド体験を怠り、受験対策と称しては盃を重ねてきた、われら“不覚性失陥”にほかなりません。 黄金色の銀杏に包まれた青学大キャンパスで、“試験も楽しむ講座”はかくして終わりました。



■ごほうびは、同期揃ってインプリ・デビュー

試験を終えたある日、幸運の東京キュービットは微笑みます。講座で血肉としたことを、発揮する機会がやってきました。東京支部のイベントでインタープリターとしてデビューすることが決まったのです。さっそく作戦を練って、下見や予行練習を繰り返しました。

当日は、同期も研修スタッフとして馳せ参じてくれ、とても心強かったです。イベントを終えての率直な感想は・・・。「勉強はこれから」が身に沁みる一日でありました。でも参加者アンケートには、概ねご満足のご意見が並び、ホッとしました。いやはや失敗談は、忘れた頃にでも又・・・。

■“やまぼうしマジック” をご存知ですか？

そして、森林インストラクターチャレンジコースの他に、私が受講した次年度から始まったのが、森を楽しむ講座の中の都内森めぐりコースです。山手線の内側を条件に、厳選した公園をめぐる果敢なる企画です。ここでも、スタッフとして関わり、たくさんの経験を積むことができました。

「東京で、森ってどこにあるの」というのが、ごく普通の首都圏在住のお客さまが、ごく普通に持たれる疑問です。でも、このシリーズを終えてお客さまから頂くアンケートには、ほぼ全員が満足(最高評価)！ やまぼうしマジックとでもいいでしょうか、参加すると、東京にもたくさんの素敵な森があることに気付くことができるのです。そして、平凡なサラリーマンがインタープリターとしてたくさん成長できるのです。

■東京マラソン、やがてゴールへ

私の師匠からよく“場数を踏みなさい”とアドバイスを頂いています。菅平の長野本校にもお邪魔して、体験学習のインタープリターとして活動し、長野本校の皆さんにとってもお世話になりました。

当たり前なのですが、木々は生まれて一歩も動けず耐えています。適度の光合成、葉を食われぬよう身を守り、子孫を残そうと命がけで、人間の何倍もの時間を暮らしています。そういう事実をやまぼうし自然学校の活動を通して教わった気がします。“森のない東京”でも根っこは同じ。私は木々の愛おしさを、何とかお客さまにお伝えできればと考えています。

いつしか“引き算の人生”に入ってしまったから、一日いっときを、意識しながら森での楽しみを、たくさんの方々と一緒にしたいと思います。



(事務局より)



やまぼうし自然学校で活躍している方々は、北村さんのように、養成講座の受講後も積極的に研修に参加して、インタープリターとして活動されています。来年度も、長野本校では「やまぼうしインタープリター養成講座」。東京支部では「森を楽しむ講座(森林インストラクター受験コース、やまぼうしインタープリター養成コース、都内森めぐりコース)」を開催します。詳細は、お問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

評価会を開催しました

長野本校および東京支部で、やまぼうし自然学校スタッフ、それぞれの現場で活動するインタープリターが集まり、今年の活動の振り返りと来年への展開を話し合う、評価会を実施しました。

【長野本校】 2011年12月9日、10日
@安藤百福記念自然体験指導者養成センター



インタープリターの自己評価シート、参加者や学校の先生方からのアンケートを共有し、活発な議論が交わされました。時間に追われるのではなく、ねらいを共有して進めることの大切さも改めて確認しました。また、安全管理の再確認はもちろん、活動時にもっとインタープリター同士が、連携をスムーズにとれるよう工夫していこうということで、いろいろなアイディアを出し合いました。さらに、他団体との協働や、プログラム備品の更新、参加者や学校の先生へのアンケートの回収率を上げることなど、よりよい自然体験プログラムの提供に向けた今後の目標事項を確認しました。

文・佐藤明希

【東京支部】 2011年12月16日、17日
@高尾の森わくわくビレッジ

昨年比大幅収入アップが見込まれる東京支部。支部が発足した2004年からは自然観察会のフィールドが増え、指導者養成講座の受講生も増えました。2012年には新たな事業もスタートします。活動を支える会員の多彩さは、「新たな依頼が飛び込んできても、〇〇さんに相談すれば大丈夫という心強さがある。」という支部代表の言葉に表れます。

居住地域がさまざまなことも、東京支部の強みです。自分の地域を自慢したい！という気持ちが、そのまま観察会企画づくりに生かされます。来年の飛躍にもうご期待！

17日の午前、ANA人財大学の大槻みち子氏を講師に「ホスピタリティー」について学びました。「クレームは絶対あったほうがいい。よりよくなれるチャンスだから。」と言いきる根底には、「誠意・毅然・チームワーク」に満ちた対応でファンを獲得してきた実績と自信があるように感じられました。スタッフのコミュニケーションをより活発にすることこそ、お客様の信頼獲得につながることを確認できた有意義な研修会でした。

文・瑞慶覧明子



講演会レポート

長野本校の評価会では、この秋に体験学習をご利用いただいた、大田区立大森東小学校の山田英二先生に、「現代の子ども達の様子」「異文化と価値観」と題した講演をしていただきました。子どもの心をつかむアイスブレイクゲームの実践も交え、とても楽しい講演でした。先生のこれまでのご経験から感じた「異文化はすぐ隣にあり、いつか分かり合える」というメッセージも素敵でした。最後には、ギターの弾き語りも！

以下は、「現代の子ども達の様子」の講演の、抜粋です。自然体験活動がこれからの社会に発信できることがたくさんある！と背中を押してもらった気がします。ありがとうございました。

文・佐藤明希



「現代の子ども達の様子」

現代の子ども達は、外で火を燃やしたり、昆虫を捕まえてといった自然体験や、店員さんとやりとりをしながら一人でおつかいをするなどの社会での体験も限られてきています。その反面で、増えてきたのがメディアとの接触です。

「子どもを放っておけば遊んでいるもの」というのはもはや「神話」といっても過言ではありません。まず、おけいこ事で忙しく、自由な時間が少なくなりました。さらに皆が同じおけいこ事をしているわけではないので、一緒に遊べる友達を見つけることが難しい現状があります。そして空き地や川や森などの減少、道が交通量の増加により遊び場にはできなくなってしまったことなど「屋外」が遊びにくい環境になってしまいました。一方「屋内」は、空調設備とおやつと楽しいゲームが完備された子ども部屋など、快適な空間となっていたのです。



しかし、子どもの成長に必要でありながら、室内ゲームでは獲得できないものがあるとするならば、それをどう補っていくかを真剣に考えなくてはなりません。実際、子ども達が外で遊ばなくなったことによる影響が、体力や運動能力の減退という形で、数値にも現れています。また、少人数での遊びが多くなったことで、リーダーシップが育たないこと、人との付き合い方を学んでいないので、人間関係に傷つきやすいといった影響を感じます。昔は勉強以外でも、遊びの中でいろいろな特技を評価される機会がありましたが、今はお互いに認め合う、自分に自信を持つという機会もなくなってきています。

また、情報の洪水の中で子どもたちは、自分の頭で処理しきれないほどの情報が入ってくる生活をしています。過大な情報は、精神的にもよくないと思いますが、親も社会も何もしていない時間をよしとしてくれません。しかし、「ぼーっとする時間」というのは、とても大切な気がしています。野外に出向くこと、野外で活動することは、大量情報社会から逃れて、孤独を求める作業に似ている気がします。そこで気を休め、じっくり考えるために大きな塊の時間が必要だと思うのです。

最後に、私が野外および野外活動が提供できる最大の売りは「同じものがひとつとしてないこと」ではないかと思っています。これが大人も子どもも、自然の中で心が安らぐ理由のひとつでしょう。

インターンシップしませんか？

「自然学校ってどんな仕事？」 「スタッフはどんな人？」
「どんなサービスを提供してるの？」 「お客さまはどんな人？」

この冬も、体験学習やキャンプ業務を中心にインターンシップを受け入れます。
興味のある方は、ぜひお問い合わせ下さい。 担当：瑞慶覧

インターンシップ経験者の声 石田弓子さん（日本環境フォーラム第12期研修生）
【実施業務：森でモリモリ遊び隊】（対象：上田市、須坂市の小中学生30名）

そくそくと集まってくる子どもたちには、それぞれにお気に入りの場所があるようです。みんな思い思いの場所で、ノコギリ片手に野良仕事をしたり、火おこししたり、森を開拓(?)したり、原っぱで大縄跳びの連続ジャンプに挑戦したり。たくさん遊びたいことがあって忙しい!!と言わんばかりに、一生懸命動き回っています。そんな遊び隊に今回初めて入隊させて頂きました。一生懸命に自然や仲間と向き合う子どもたちに、私たち大人も一生懸命です。大人も子どもも関係なく、ひとりひとりの『やってみたい』を大切にすることで、私も真剣にあそび、彼らの純粋な遊び心にとっても刺激を受けました。最後に「今度いつ来るの?」と言ってもらえた時は本当に嬉しかったです。きっと、また遊びに行きます!!



(写真の黄緑のアウトターを着ているのが石田さん)

■待遇：交通費のみ支給

自家用車の方はガソリン代(※) バス利用の方はバス代をお支払いします
※冬期は雪道運転となりますので、慣れない方はご相談ください

■場所：菅平高原（長野県上田市）

※やまぼうし自然学校の事務所内、および菅平高原が主な業務場所です

■条件：大学生、屋外の活動に適した服装で来られる方

■業務：各種事業(※1)の運営補助と、評価(※2)

※1 インターンシップ受入時期により、実施事業が異なります

※2 体験学習やキャンプに参加する児童、生徒の【自然への関心、理解】、【活動の安全性】、【資源活用法】等を評価していただきます

■受入時期と実施事業 ※募集期間は、の①～③のそれぞれ10日前まで

①2012年1月4日(水)～7日(土)(4日間) ■スノーキャンプ in 信州

②2012年2月22日(水)～24日(金)(3日間)

■私学小学校(東京)の体験学習(ソリ遊び、かんじき、イグルー作り、雪合戦など)

③2012年3月23日(金)～26日(月)(4日間) ■スノーキャンプ in 信州

※スノーキャンプは、キャンプアシスタントではなくスタッフとして業務します

※スノーキャンプは募集事業ですので、不催行の場合もありますことをご了承ください

やってみて！おいしいレシピ

○● 菅平高原が育んだおいしいさ！花豆とヤマブドウジャム ○●

■花豆

1. 6月のはじめごろ畑を耕し支柱をつけ、種を撒き、のびのび育つよう愛情を注ぐ
2. キャンプで畑の周りがにぎやかなころ、小さな赤い花を愛でる
3. 霜が降りる頃収穫して、天日に干し、さやから豆を取りだす
4. 豆は水から煮て、2～3回煮こぼす
※ふきこぼれないように注意し、急にフタを取ると一気に鍋の中の圧力が下がって豆の表面がシワシワになってしまうのでふきこぼれそうになってもフタを取らないのがポイント！
5. 3度目に水から煮て、豆が柔らかくなったら、砂糖を加えて煮ふくめる
6. 余った煮汁は、寒天やゼラチンを加えてゼリーにして、残さずおいしくいただきます



■ヤマブドウジャム

1. 紅葉したヤマブドウの葉を目ざとく見つけ、採取してもいい場所かどうか確かめておく
2. 蔓が巻き付いている木を傷めないように注意しながら、実を採取する
3. 裏ごしして種を取る（ほとんど種なので、ちょっぴりしか果肉はないけれどめげずに！）
4. 弱火でじっくり煮詰める
5. 煮沸しておいたビンに詰め、脱気をする
6. 元気が余っていたら、種を洗って素敵なクラフトもつくれます！



イベント情報

やまぼうし自然学校の会員の方は・・・

◆長野本校イベント 毎回参加費50%割引（半額！）

◆首都圏イベント 毎回参加費10%割引！さらに、3回参加で次回50%割引

♪ 冬のいつでもガイド ♪

●スノーシュー ●ネイチャースキー ●森のクラフト ●おやつづくり

寒い冬だからこそ、楽しいことがいっぱい。白銀の世界を楽しむもよし、室内でぬくぬくほっこりするもよし。都合により、催行できない日もありますので、事前に必ずご予約ください。1名様より催行します！

日にち	1月～3月（積雪時）の希望日	長野本校
時間	①9:30～11:30 ②13:00～15:00	
集合解散場所	上田市菅平高原 やまぼうし自然学校事務所	
参加費	小学生～大人 1人2,000円 幼児無料 ※保護者の同伴が必要です	
申込締切	実施希望日の3日前まで	

♪ 雪の森のお宝さがしハイキング ♪

菅平高原のパウダースノーの大雪原を、スノーシューやかんじきをつけて、ハイキングに出かけましょう。雪の森には宝物がいっぱいです！

日にち	1月21日（土）10:00～14:00	長野本校
集合解散場所	やまぼうし自然学校 事務所	
参加費	大人 2,000円、小中学生 1,000円 ※スノーシューのレンタルは、別途レンタル代1,000円が必要 ※2011年度JT NPO助成事業	
申込締切	1月18日（水）	

♪ 江戸城・日本橋散策&自然食ランチ ♪

大河ドラマの江姫が過ごした江戸城をめぐり、早春の自然観察もたっぷり！ランチは日本橋二丁目ダイニングで、産直野菜たっぷりの自然食ランチです。

日にち	①1月28日（土）9:30～15:30 ②2月4日（土）9:30～15:30	東京支部
集合場所	皇居東御苑／大手門 9:30	
解散場所	東京駅周辺（予定）	
参加費	5,000円（ランチ代、資料代込み）	
申込締切	①1月25日（水） ②2月1日（水）	

♪ スノーシューハイク in 根子岳 ♪

雪が締まって歩きやすくなる残雪期のお楽しみは、やっぱり恒例の根子岳スノーシュー！もちろん帰りは、スリル満点ソリ滑り。かんじき、山スキーでの参加もOKです。

日にち	2月26日（日）8:00～14:30	長野本校
集合解散場所	やまぼうし自然学校 事務所	
参加費	大人 2,000円、小中学生 1,000円 ※スノーシューのレンタルは、別途レンタル代1,000円が必要です	
申込締切	2月21日（火）	

♪ ジビエを楽しむワイルドランチ ♪

森の恵みのジビエ（狩猟でしとめる、野生鳥獣の肉）を味わいながら、森とのつながりを語り合いませんか。午後はお楽しみワイルドクラフトづくりです。

日にち 3月3日（土）10:00～15:00
集合解散場所 やまぼうし自然学校 事務所
参加費 大人 3,000 円、小中学生 2,000 円、幼児無料
申込締切 2月29日（水）



長野本校

♪ スノーキャンプ in 信州 ★ 菅平高原 ♪

「やってみたい!」を大切に、アルペンスキーも雪遊びも楽しむよくばりプランです。やまぼうし自然学校と宿泊施設、24 時間寄り添うキャンプアシスタント。三者の万全の協力体制で初めてのお泊り、初めてのスキーでも安心です。（主催：長野県旅行業協会）

日程 ③ 1月4日（水）～7日（土） ④ 3月23日（金）～26日（月）
※①、②は12月に開催しました
宿泊 全泊、菅平高原内の宿泊施設に泊まります
集合・解散場所 新宿駅または菅平高原
募集 30名
対象 小学1年生～6年生、中学生
参加費 49,500 円（食事、宿泊、指導、資料、保険込、レンタル代別途）
※菅平高原集合解散の場合 41,000 円
お申込み 長野県学習旅行誘致推進協議会公式ホームページ
または、やまぼうし自然学校へ申込書を請求してください
申込締切 各コースの開催日 1週間前

長野本校

♪ 手前味噌づくり ♪

大豆と麹と塩とみんなのおしゃべりで、おいしい手前味噌ができていきます

日時 3月17日（土）10:00～14:30
場所 上田市中央公民館 調理室（予定）
参加費 1セット（約3kg） 2,000 円 ※1セットあたりの調理人数は問いません
※水煮大豆（乾燥重量で1kg）は、持参または別料金（1,000 円）
申込締切 3月7日（水）

長野本校

♪ やまぼうしウインターキャンプ ♪ 子どもゆめ基金助成事業

積む、滑る、固める、掘る、投げる……。アイディアが形になるおもしろさがいっぱいの雪をキャンプ仲間と一緒に作り上げる雪遊び三昧の3泊4日。ソリ滑り、雪の王国づくり、雪の森探検、雪原ティータイム、お土産クラフトづくりなどなど。

日程 3月28日（水）～31日（土）
宿泊 菅平高原 ペンション ブッガブー
集合・解散場所 菅平高原または池袋駅
募集 30名
対象 小学1年生～6年生、中学生
参加費 20,000 円（食事、宿泊、指導、資料、保険込）
※池袋からご参加の方は、別途交通費 3,220 円が必要です
申込締切 3月14日（水）

長野本校

※各キャンプのアシスタントを募集しています。詳細は、お問い合わせください。

スタッフよりひとこと

今年も、たくさんの方と森の恵みを楽しむことができました。来年もよろしく願いいたします。



瑞慶寛明子（すけちゃん）

「ねえ、あれ渡して。」スタッフに耳打ちするかずやは4年生。遊び隊の卒業生で3人兄弟の一番上。家族でやまぼうしのイベントに参加したときのこと。小刀でせっせ小枝のえんぴつを作る、かずや。他の参加者へのプレゼントに、と。恥ずかしがる本人に代わり渡すスタッフ。それを見守る嬉しそうな顔！その心意気に乾杯！、いや完敗！



佐藤明希（あっきい）

「行くか迷った時点で、実は答えは決まっているんだよね。」長野の集まりで出会った、京都から来た人との会話。そして「人は、良くも悪くも探しているものしか見つけれない」とも。ワクワクを見つけるのも自分次第。心のニュートラルな状態を知っておくことが、素直な心の動きを教えてくれる気がする。



西澤純子（じゅんじゅん）

脚立のてっぺんにすら登れない私が、高さ8mもの丸太の上を歩いた。ハーネスとロープで確保されてはいるものの、掴まる手すりのない、空中の丸太。仲間の「できる！大丈夫！」の声掛けに背中を押され、気づいたら歩き始めていた。後日はせじいと脚立の上で作業。恐かった。あの力はなんだったのだろう。



吉岡明美（けみちゃん）

10月の終わりに、インタープリターデビューをしました。その時に初めて、自分の口から自分の言葉で「森でつながる いのちの わ」という言葉が出てきました。自分は子ども達に何を伝えたいのか、どうしたら伝わるのかという頭の中だけにあったことを実践でき、新しい一歩を踏み出しました。



保母裕美（ほぼちゃん）

けみちゃんに続いて、私も薪の中にいた幼虫を事務所のストーブで炙り、レア！でありがたく頂戴しました。子どもの頃はタニシ、ドジョウ、ハチの子、イナゴ。たまには食卓に登場してましたが・・・久しぶりに第六感がピピッと刺激されました。誕生月でしたが若返ったかな？



石川順子（じゅんこさん）

神宮外苑のイチョウ並木はクリスマスが近いというのにまだ見ごろだという。新宿西口でふと街路樹を見上げると色づいているものの、ここもまだ葉がたくさん。隣家のモクレンにはなんと色づいた葉に交じって緑色発見。このところの街中自然観察はもっぱら「落葉まだ」チェックだ。



仲川好乃（よっちゃん）

ふらっと行った奥多摩で、カワガラスとセグロセキレイを初めて見ました。急な流れの中で、潜って魚を捕る様子はとても可愛かったです。何気なく持った出た双眼鏡のおかげです \（・o・）/！お出かけのアイテムに是非、双眼鏡を・・・。



長谷川功（はせじい）

厳冬期を前に、菅平高原は例年より雪の少ない師走となっていますが、今後どうなるでしょうか？今年を表す漢字は「絆」とか。やまぼうしの一年はどうだったでしょうか。来年は加々美代表を前面に強く出し、みんなで協力し、磐石のやまぼうしを目指します。お客様、会員の皆様よろしく願いいたします。